

北見武道通信

令和7年10月30日 00767号

編集者:佐藤 寿春

北見市幸町8丁目4-4(佐藤整骨院内)

NPO 法人北見市武道振興協会事務局発行

直通:090-5986-0839

代表:0157-22-2212 Fax:0157-23-0581

satou.tosiharu@navy.plala.or.jp

URL <http://www.kitamibudokan.org/>

ニュースレター【事務局情報】剣道第一種審査会

10月26日(日)オホーツク管内の「剣道第一種審査会」が北見市武道館(「道場2」「道場3」「多目的道場」「研修室」)を利用して開催されました。既に8月の講習会済の受審者65名(初段～参段)は年毎(北見網走紋別)に行われる本審査会に積極的に参加しています。主管する北見地方剣道連盟の役員係員の皆さんは、剣道の普及発展に奔走していました。(佐藤)

いたずら「辰ちゃん」立てこもり事件！



辰ちゃんは4人兄妹の末っ子で、まだ1歳ですが事務所から視ていると畳の上を歩き回るなど足取りも速くとても活発でお母さんも目がはなせません。この日は剣道の審査会に参加していた兄姉の応援で、お母さんに連れられて網走から北見市武道館に来ていましたが、突然「辰ちゃんが鍵をかけ出られなくなっちゃった～」と一緒に来ていた次女の星南ちゃんが事務所に駆けこんで来ました。話をきくと、2階の指導員室に入り自分で鍵をかけてしまったようです。2階の指導員室は頑丈な強化ガラスの引戸で内側から鍵をかけることが出来ません。スタッフと駆けつけると、赤塚辰光くんが中に入って邪魔されないように鍵をかけ存分に冒険をしたいようです。これではお母さんもお手上げです。辰ちゃんが立てこもり状態でも指導員室の中は安全ですが、お母さんは心配でなりません。スタッフが合鍵で開けると、「立てこもっていた辰ちゃん」は笑顔でまた北見市武道館の探索に歩き回っていました。(佐藤)



連載「武道宝鑑」第2弾 磯貝 一 <柔道指導の心得>五、指導上の外的条件 ○設備 3

坊間、動もすれば道場の空気が甚だ低紙で、技は盛んに練習するが休憩所における動作言語等頗る野卑愚劣なるを見受けることがあるが、かかる場所に於いては真の柔道修行者は出来ない。総じて修行者の環境をよくする事は指導者として大いに注意すべき事である。更にまた設備上の細かい点をいえば、日光を十分にとって道場を陰気ならしめず、空気の流通をよくして塵の立たぬようにし一面衛生の原則に適するよう注意も怠ってはならぬ、これも指導者が後進者に対する親切心である。また、これは人によって見解を異にするかも知れないが、道場の掃除は修行者自ら行うよう習慣づけることである。これは道場を愛する心を養成し、ひいて修行者相互の親密を増すと同時に、ここは道を学ぶ神聖な場所であると言う念を自然に起きさしめることになる。こういうと如何にも反時代的な指導方法のように考えられるかもしれぬが、私としては柔道の修行は、かくの如き所から出発しなければならないと信じている。時間に来て、欲するだけの稽古をして、サッサと帰ってしまう、というようでは、柔道の修行は覺束ない。兎にも角にも、何よりも先ず苦しみ磨くという覚悟がなくては、武道修行は出来得ない。故に些細なことのようだが、こういう点にこそ大いに心すべきであると考えるのである。 つづく